

南部地区職業教育拠点校新築等設計公募型プロポーザル審査講評

【第2段階審査の経過】

第1段階審査を通過した5社によるプレゼンテーション・ヒアリングの後、審査を行った。まず、各社の技術提案書の表現等が実施要項に沿ったものかどうかを確認し、いずれも実施要項に抵触するものではないことを確認し審査を進めることとなった。

各委員による評価に入る前に、各社の技術提案書の内容についてあらためて特徴や課題などを順に意見交換して確認をした後に評価に移った。評価は記名とし、あらかじめ設定された評価項目ごとに5段階の評価点数を記入し、全員が記入後、事務局で回収、各項目の配点に応じた配分と集計を行った。第1段階での評価点（満点30点）はそのまま持ち越し、第2段階（技術提案書・ヒアリング）の評価点（満点70点）とあわせて100点満点で総計点をまとめた。

その結果、A社が85.5点、D社が81.6点、E社が72.4点、C社が68.8点、B社が68.7点となった。委員別では、A社に最高得点を付けた委員が2名、D社に最高得点を付けた委員が3名となった。第2段階の評価では、A社とD社がほぼ同等の評価点となったが、第1段階の評価点との合計でA社が上回ったことから、全員一致でA社を設計候補者として選定した。またD社は次点候補者として選定することとした。

今回、第2段階評価（プレゼンテーション・ヒアリング）に臨んだ各社においては、短期間の作業期間であるにも関わらず、敷地の特殊性、既存施設を考慮した配置計画、新設校の整備方針などに対して真摯に向き合い、丁寧で質の高い意欲的な提案をされたことに対し、判定委員一同心から敬意を表し、感謝を申し上げたい。

【選定結果及び講評】

設計候補者：株式会社 梓設計 東北事務所（A社）

取組体制や業務の進め方、各課題に対する提案において、総合的な観点から大変優れた提案と評価された。

業務の取組体制では、対話型の設計により様々な「つながり」を大切にした新たな職業教育拠点校づくりを行うこととしている。また、3つの専門チームによる強力なバックアップ体制も特徴のひとつである。学校と地域を賑わいでつなぐ「ふれあい通り」や活動や賑わいを生み出す「交流広場」により各エリアをつなぐ計画としている。また、学習ゾーンの主動線となるプロムナードやふれあい通りを計画することにより、基礎学習ゾーンと地域連携ゾーンを構成することとしている。新校舎は高さを抑えることで、明るい環境、周辺地域へのプライバシーの配慮、圧迫感の軽減を図っている。また施設の空間構成においては、ループ状の動線や吹抜けで繋がる施設構成などにより、学年交流、学科交流、地域交流を通じて生徒の社会性を育む施設構成としている。

これらにより評価を集め、提案者の意欲的な姿勢とともに、幅広く意見を聞く姿勢と夢のある新たな学校づくりに対する提案力などが高く評価された。

以上から、第1段階の評価も踏まえ、本事業の設計業務を委ねるのに最もふさわしい設計候補者として選定した。

最後に、今回の提案において様々な課題等はあると思われるが、今後設計のパートナーとして、夢のある学校づくりの実現と実務に対する配慮の両面を合わせ持った素晴らしい設計となることを目指し、生徒のことを第一に考え最後までしっかりと取り組んでいただくことを委員会の希望として、設計候補者の講評とする。

次点候補者：株式会社 楠山設計（D社）

各課題に対して、オーソドックスではあるものの、生徒、教職員、学校関係者、地域住民等のことをよく考え、実現性が高く、均衡のとれた提案として高く評価された。

業務の取組体制としては、パートナーとして行う対話を基本とし、確実なスケジュール管理や業務遂行体制を構築することとしている。また提示された設計コンセプトの実現に向けて、機能性、防災・防犯性能、管理運営等に優れた建物とするなどの基本方針を定めている。農業実習棟においては、3つのエリアの結節点となる位置に配置することで、エリア間の連携を図る計画としている。校舎棟においては、吹き抜けに「賑わいボイド」を設けることで、学科間や学年間の交流を促すこととしている。

これらにより評価を集め、全体を通して非常にバランスの良い提案として高く評価された。

以上から、第1段階の評価も踏まえ、最終的には次点候補者として選定した。

平成30年3月29日

南部地区職業教育拠点校新築等設計

公募型プロポーザル判定委員会

会長 伊藤 真市